

平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年2月10日

上場会社名 株式会社第一興商 上場取引所 大
 コード番号 7458 URL <http://www.dkkaraoke.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 三郎
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部経理部長 (氏名) 小林 成樹 (TEL) 03 (3280) 2151
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績（平成23年4月1日～平成23年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	95,968	△0.1	14,673	4.6	15,941	8.5	8,297	3.3
23年3月期第3四半期	96,105	0.6	14,024	0.2	14,698	△0.3	8,031	△8.5

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 8,484百万円 (2.3%) 23年3月期第3四半期 8,290百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	129.88	—
23年3月期第3四半期	122.77	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	140,618	91,872	64.6
23年3月期	137,447	88,034	63.4

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 90,875百万円 23年3月期 87,083百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	25.00	—	30.00	55.00
24年3月期	—	25.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	30.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	127,000	△0.7	18,000	9.0	19,400	11.1	10,500	9.5	165.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年3月期3Q	63,420,596株	23年3月期	64,220,596株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	2,863株	23年3月期	2,813株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年3月期3Q	63,881,411株	23年3月期3Q	65,420,229株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業務見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P.4「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) セグメント情報等	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日～平成23年12月31日、以下「当期間」という。）におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による停滞から緩やかな回復基調にあるものの、タイ洪水によるサプライチェーンの混乱や欧州債務問題に端を発する世界経済の鈍化と歴史的な円高が企業業績を圧迫するなど、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

この様ななか、当社グループの業務用カラオケ事業におきましては、カラオケの介護予防や健康維持の効果を活かし、エルダー市場の開拓に注力いたしました。カラオケ・飲食店舗事業では、既存店の収益改善施策に積極的に取り組んだ結果、売上高は堅調に推移いたしました。また、音楽ソフト事業では、主力アーティストの作品群が収益に貢献いたしました。

以上の結果、当期間の売上高はカラオケ・飲食店舗事業が増収となったものの、業務用カラオケ事業および音楽ソフト事業とその他の事業が減収となり95,968百万円（前年同期比0.1%減）となりました。利益面におきましては、業務用カラオケ事業とその他の事業が減益となったものの、既存店が回復したカラオケ・飲食店舗事業が大幅な増益となり、営業利益は14,673百万円（同4.6%増）、経常利益は営業外収支の改善により15,941百万円（同8.5%増）となりました。また、税制改正に伴う繰延税金資産の一部取崩しによる税金費用の増加はあったものの、四半期純利益は8,297百万円（同3.3%増）となりました。

（百万円）

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	96,105	95,968	△137	△0.1%
営業利益	14,024	14,673	649	4.6%
経常利益	14,698	15,941	1,242	8.5%
四半期純利益	8,031	8,297	265	3.3%

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（業務用カラオケ）

当事業におきましては、主力商品「L I V E D A M」の出荷は引続き堅調に推移いたしました。また、10月に発売した「F R E E D A M」は、総合生活機能の改善機器としてエルダー市場から高評価を得ており、順調な出荷状況となりました。さらに、「歌と健康とコミュニケーション」をテーマとした「DAM倶楽部」を11月に開業し、社会に貢献できるカラオケの新たな事業モデルの開発を目指しております。機器賃貸件数や「DAM」の稼働台数は、重点戦略である低シェア地域の営業強化と被災地域での再開需要などにより、順調に増加いたしました。

（百万円）

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	48,907	47,342	△1,565	△3.2%
営 業 利 益	9,742	9,608	△133	△1.4%

主要数値

	単位	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
DAM稼働台数	千台	229.0	231.9	2.8	1.2%
（うちブロードバンド稼働台数）	千台	(110.1)	(115.4)	(5.3)	4.8%
機器賃貸契約件数・12月末	千件	63.6	65.4	1.8	2.9%
DAM出荷台数・12月末	千台	21.1	19.5	△1.6	△7.6%

（カラオケ・飲食店舗）

当事業におきましては、期初の自粛ムードから一転して、震災後の復興需要や「絆」を重視する消費意識の高まりと復興を願うムードも下支えとなるなか、既存店の改善に向けた積極的な取り組みも功を奏し、回復基調で推移いたしました。カラオケルーム事業においては、「ビッグエコー」のマルチブランド化やTVコマーシャルによるブランド告知など、集客の向上に注力いたしました。また、飲食店舗事業においては、集客と運営効率の向上を目指し、複数ブランドの組み合わせによる業態複合を推進するなど、既存店の収益回復に努めました。

（百万円）

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売 上 高	31,318	33,924	2,606	8.3%
営 業 利 益	4,835	5,718	883	18.3%

主要数値

	単位	前第3四半期 期末	前期末	当第3四半期 期末	当期増減	当期増減率
カラオケ店舗数	店	290	291	295	4	1.4%
（うち複合店舗数）	店	(34)	(31)	(32)	(1)	3.2%
カラオケルーム数	ルーム	7,899	7,902	8,105	203	2.6%
飲食店舗数	店	113	115	116	1	0.9%
飲食店舗座席数	席	14,296	14,563	14,624	61	0.4%

（音楽ソフト）

当事業におきましては、コストコントロールによる経営の効率化が定着するなか、「北島三郎」（日本クラウン）や「水森かおり」（徳間ジャパンコミュニケーションズ）などの演歌作品が安定した売上を見せるほか、「Perfume」（徳間ジャパンコミュニケーションズ）や音楽配信が好調の「ソナーポケット」（徳間ジャパンコミュニケーションズ）が収益に貢献いたしました。

（百万円）

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	8,614	8,117	△497	△5.8%
営業利益	909	912	2	0.3%

当期間に貢献した主なアーティスト

	アーティスト名
CD/DVD	Perfume スタジオジブリ作品 水森かおり ソナーポケット ほか
音楽配信	ソナーポケット Perfume Tiara ジブリ関連楽曲 ほか

（その他）

当事業におきましては、携帯電話向けコンテンツサービスと衛星放送事業の加入者数は減少傾向にあることから、コンテンツの統廃合などのコスト低減に努める一方、衛星放送事業の不採算となっていた一部事業を平成24年3月末に撤退を決定するなど、収益改善に注力いたしました。また、パーキング事業、ホテル事業なども軟調に推移いたしました。

（百万円）

	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	対前期増減	増減率
売上高	7,264	6,584	△680	△9.4%
営業利益	740	556	△183	△24.8%

（2）連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ3,170百万円増加し、140,618百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動資産では、現金及び預金が2,535百万円及びその他に含まれる前払費用が704百万円それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が2,616百万円及びたな卸資産が764百万円それぞれ減少しております。

固定資産では、土地が4,636百万円増加し、無形固定資産のその他に含まれる音源映像ソフトウェアが941百万円減少しております。

負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ666百万円減少し、48,746百万円となりました。

増減の主なものとしては、流動負債では、その他に含まれる未払金が1,013百万円及び未払法人税等が421百万円それぞれ増加し、支払手形及び買掛金が974百万円及び賞与引当金が296百万円それぞれ減少しております。

固定負債では、長期借入金が1,580百万円減少しております。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ3,837百万円増加し、91,872百万円となりました。

これは主に、四半期純利益による利益剰余金の増加8,297百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少3,512百万円及び自己株式の取得による減少1,130百万円によるものであります。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の業績予想につきましては、平成23年11月7日に公表した業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(法人税率の変更等による影響)

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」

(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。この税率変更により、繰延税金資産(繰延税金負債を控除した金額)は272百万円減少し、その他有価証券評価差額金は43百万円、法人税等調整額は316百万円それぞれ増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,955	29,490
受取手形及び売掛金	10,597	7,981
たな卸資産	7,354	6,589
その他	5,936	6,725
貸倒引当金	△397	△258
流動資産合計	50,446	50,529
固定資産		
有形固定資産		
カラオケ賃貸機器（純額）	6,300	6,561
カラオケルーム及び飲食店舗設備（純額）	14,735	14,877
土地	19,143	23,780
その他（純額）	6,906	6,604
有形固定資産合計	47,085	51,823
無形固定資産		
のれん	641	508
その他	7,421	6,282
無形固定資産合計	8,063	6,791
投資その他の資産		
投資有価証券	12,919	13,192
敷金及び保証金	13,198	12,819
その他	6,018	5,744
貸倒引当金	△283	△281
投資その他の資産合計	31,852	31,474
固定資産合計	87,001	90,089
資産合計	137,447	140,618

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,091	5,116
短期借入金	5,465	5,827
未払法人税等	3,120	3,541
賞与引当金	1,121	824
その他	9,599	10,980
流動負債合計	25,398	26,291
固定負債		
長期借入金	16,831	15,250
退職給付引当金	3,011	3,199
役員退職慰労引当金	2,318	2,231
負ののれん	234	201
その他	1,618	1,571
固定負債合計	24,014	22,455
負債合計	49,413	48,746
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,350	12,350
資本剰余金	14,035	12,905
利益剰余金	61,552	66,337
自己株式	△4	△4
株主資本合計	87,934	91,589
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	91	295
土地再評価差額金	△777	△777
為替換算調整勘定	△164	△231
その他の包括利益累計額合計	△851	△713
少数株主持分	951	996
純資産合計	88,034	91,872
負債純資産合計	137,447	140,618

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	96,105	95,968
売上原価	55,721	56,100
売上総利益	40,384	39,868
販売費及び一般管理費	26,360	25,194
営業利益	14,024	14,673
営業外収益		
受取利息	120	525
受取配当金	83	90
受取協賛金	376	417
貸倒引当金戻入額	—	105
負ののれん償却額	35	32
その他	436	508
営業外収益合計	1,052	1,678
営業外費用		
支払利息	144	218
その他	233	192
営業外費用合計	377	410
経常利益	14,698	15,941
特別利益		
固定資産売却益	13	24
投資有価証券売却益	7	19
投資有価証券償還益	148	—
貸倒引当金戻入額	31	—
退職給付引当金戻入額	107	—
その他	54	—
特別利益合計	362	44
特別損失		
固定資産処分損	226	157
関連事業整理損	—	678
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	440	—
適格退職年金制度廃止損	901	—
その他	48	25
特別損失合計	1,617	861
税金等調整前四半期純利益	13,444	15,125
法人税、住民税及び事業税	5,622	6,517
法人税等調整額	△328	261
法人税等合計	5,293	6,778
少数株主損益調整前四半期純利益	8,150	8,346
少数株主利益	119	49
四半期純利益	8,031	8,297

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,150	8,346
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	250	204
為替換算調整勘定	△109	△66
その他の包括利益合計	140	138
四半期包括利益	8,290	8,484
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,171	8,435
少数株主に係る四半期包括利益	119	49

- (3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	48,907	31,318	8,614	88,841	7,264	96,105	—	96,105
セグメント利益 (営業利益)	9,742	4,835	909	15,487	740	16,228	△2,203	14,024

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、衛星放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,203百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
	業務用 カラオケ	カラオケ・ 飲食店舗	音楽ソフト	計				
売上高	47,342	33,924	8,117	89,384	6,584	95,968	—	95,968
セグメント利益 (営業利益)	9,608	5,718	912	16,239	556	16,796	△2,123	14,673

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、衛星放送事業、Web事業及び不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,123百万円は、主に報告セグメントに帰属しない本社の管理部門における一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。